

おおせき

大関小学校だよりNo.3

令和8年6月22日

いじめ見逃しゼロ強調月間

校長 岸本 政和

新潟県では、毎年6月を「いじめ見逃しゼロ強調月間」とし、県内すべての学校でいじめ見逃しゼロを目指して独自の取組を推進しています。そこで、今月も全校朝会では「いじめについて」の話をしました。

6月はいじめ見逃しゼロ強調月間です。新潟県のすべての学校で、いじめの見逃しをなくすために、自分たちにできることを実行します。

以前からお話していますが、私はいじめを絶対許しません。ズボンおろしも、スカートめくりも絶対許しません。どんな理由があっても、友達の心や体を傷つける人は絶対に許しません。いじめられた人がいたら、私は全力で守ります。

なぜズボン下ろしやスカートめくりがいけないのか皆さんは知っていますか？ 以前、ズボン下ろしをされたショックで、自殺してしまったという悲しい出来事がありました。

おもしろ半分でも、ふざけ合っていたとしても、ズボン下ろしをされた人は深い傷を負ってしまいますし、その場にいた人たちも悲しい気持ちになってしまいます。これもいじめです。絶対にやめてください。

今月は、相手の気持ちになって、「こんなことしたら友達は傷つくかな」「こんなことを言ったら友達は悲しむかな」と、先に考えてから行動できるよう心がけていきましょう。

人は生きている限り、様々な人と関わり、時にはトラブルに直面するかもしれません。そのときのためにも、相手を傷つけることなく、お互いの立場を尊重し合い、自分たちの力で正しく解決しようとする力を身につけておく必要があります。

いざというときに「大丈夫。自分たちで解決できる」という自信をもてることが、いじめ抑止の大きな力にもなるのではないかと考えます。

何事も自分で抱え込んだままでは苦しいばかりです。苦しくなる前に、周りの人に相談する。大関小学校に関わる全員が、この相談相手となり「自分たち」にあたるのではないのでしょうか。

大関小学校に携わる者すべてが、今後も力を合わせて子どものSOSを見逃さず、救いの手を差し伸べて、子どもたちのかけがえのない命を守る

「いじめ見逃しゼロ運動」を推し進めていきますよう、お力添えのほどよろしくお願いいたします。



全校朝会では、この他に「朝、児童玄関前でのあいさつが上手になったこと」「廊下は慌てず落ち着いて歩くこと＝時間に余裕をもって行動すること」も話をしました。お互いに声をかけ合って廊下歩行を促す姿が見受けられます。本当に素直な子どもたちです。

登下校時にお見送りの方や地域の方、見守り隊の方々にも「お先にあいさつ」できることをますます期待しています。

○「開かれた校長室」をめざして、今年も「子どもたちのくつろぎの場」として開放するように心がけています（校務で開放しきれない時もあり、申し訳ない気がしていますが…）。

○昨年は工事の関係で運動会後からグラウンドが使用できませんでしたが、今年は新しい遊具が加わり子どもたちも伸び伸びと遊んでいます。「大谷グローブ」の貸し出しも順調です。

○保護者の方から「今年は校長の昔話ないんですか？」「去年のお話、まだ完結してませんよね」などというお声をいただきます（確かに昨年の掲載は高校時代で終わっていました）。準備が整いましたら掲載したいと思います…。

